

十二日さかわ（酒輪）、十三日たけのした（竹ノ下）十四日くるまがへし（車返）、十五日ををみや（大宮）、

十六日なんぶ（南部）、十七日このところ。いまださだまらずといえども、たいし（大旨）はこの山中心中に叶<sup>かない</sup>て候へば、

しばらくは候はんずらむ。結句<sup>けっく</sup>は一人<sup>いちにん</sup>になって日本国に流浪すべきみ（身）にて候。又たちとどまるみ（身）ならばけさん

（見参）に入<sup>り</sup>候べし。恐々謹言

十七日 日蓮 在御判

けかち（飢渴）申<sup>ス</sup>ばかりなし。米一合もうらず。がし（餓死）しぬべし。此<sup>こゝ</sup>御房たちもみなかへして但<sup>いちにん</sup>一人候べし。

このよしを御房たちにもかたらせ給<sup>へ</sup>。

（文永十一年五月十七日）